

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和7年5月23日（金）午前9時30分から正午まで

2. 会場 静岡県立藤枝特別支援学校 多目的学習室（小学部棟3階）

3. 目的 * 本年度の学校経営についてご理解いただくこと
* 参観を通して本校の様子を知っていただくこと

4. 参加者

（1）学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、委員 D、委員 E【欠席】、委員 F【欠席】、委員 G

（2）本校職員

校長（鈴木ゆかり） 副校長（松本知栄子） 教頭（小林雅樹） 事務長（村松康代）

小学部主事（采女靖彦） 中学部主事（黒岩章子） 高等部主事（田中宏和）

肢体学級統括主任（二俣康明） 教務主任（鈴木裕） 地域連携課長（松崎克矢）



5. 内容

（1）開会挨拶・司会進行

****副校長（司会進行）：****

* 本日は御多用のところお集まりいただきありがとうございます。

* 本日の資料は事前に郵送済みです。資料は色の付いたグランドデザイン、学校案内のパンフレット、定例の説明で使う A3 の開きの資料、A4 の横表の全部で 4 種類配布しています。

* 皆様お揃いのため、第 1 回学校運営協議会を開会いたします。

* 事前送付させていただきました資料の予定表をご覧ください。本日の目的は資料 3 の通りです。

* 本日は学校運営協議会終了後、第 1 回コンプライアンス委員会を予定しており、終了時刻は 11 時 15 分の予定です。

* 今年度、学校運営協議会の委員は 7 名の方をお願いしております。本日は委員 E と委員 F が御欠席です。

* 協議会委員の任命状伝達は、時間短縮のため机上に配置させていただきました。お名前の間違いがないか御確認ください。

* 規則の第 14 条に基づき、会長および副会長を選出したいです。委員をやっていただける方、または推薦していただける方はいますでしょうか。

（２）会長・副会長選出

****委員 G:****

* 機会をいただいているので、昨年もやらせていただきましたし、年長でもありますので、私の方で務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

****副校長:****

* 委員 G よりお申し出がありました。委員の皆様、御承認いただけるようでしたら拍手をお願いいたします。（拍手多数）

* 会長は委員 G をお願いいたします。

* 続きまして副会長についてですが、本日御欠席の委員 E より地域コーディネーターとしてお力をお貸しいただけると伺っております。地域コーディネーターを兼ねて副会長についても委員 E を選出させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。御承認いただける方は拍手をお願いいたします。（拍手多数）

* それでは、本校の学校運営協議会会長に委員 G、副会長兼地域コーディネーターに委員 E を選出させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（３）本校校長挨拶

****校長:****

* 今年度本校に赴任いたしました校長の鈴木ゆかりです。よろしくお願いいたします。

* 自宅が袋井市のため、これまでこの地区の特別支援学校や小学校で勤務しておりました。藤枝特別支援学校は初めての勤務となります。

* 藤枝特別支援学校は、委員 G が 39 年前に中心となって活動され、この地域にできた学校です。

* 地域との繋がりが強く、周りの学校、福祉、行政など様々なところとの関係が深くなっていることを、この 1 ヶ月過ごしてみて感じています。

* 歴史のある学校を、子供たちのためにさらに良くしていけたらと思っています。学校運営協議会を通して、地域との連携もさらに深めたいです。委員の皆様を支えていただけたら嬉しいです。よろしくお願いいたします。

（４）委員自己紹介

****副校長:****

* 続きまして自己紹介をお願いいたします。委員の皆様から、名簿のご順番にお席の方をご用意させていただきますので、前の方からお願いいたします。

****委員 A:****

* 委員 A と申します。よろしくお願いいたします。今年で 3 年目になります。私立学校のため転勤もなく、あまり外へ出ていくことはありませんが、このような場があつて本当に良いと感じています。

* 3 年目なので、皆様の御意見についてここでよく考えたいと思っています。迷惑にならないようにしたいです。よろしくお願いいたします。

* 藤枝・榛原地区で女子校は本校だけになりました。他の学校は男子も受け入れていますが、本校は女子教育だけでいくとしています。生徒募集は大変ですが、女性を育てていくことで頑張りたいです。

* 地域との繋がりについて、昨年度は地域の方々に大変お世話になりました。サッカー3連覇の際、駅前でパレードを初めて行い、多くの方に集まっていただき嬉しかったです。

* 本日御欠席の委員Fの関係で、クックデザインの生徒とコラボしピザを販売したことや、最近ではパトンさん（藤枝のパン屋さん）とコラボし、幼稚園の子供たちが作った作品をパンにして販売することもしていただきました。

* 地域の方々に色々御協力いただいていると感じています。本校も発信を続け、皆さんに分かっていただける機会をたくさん作っていきたいです。これからもたくさんの取り組みをしていきたいです。

* 藤枝特別支援学校との交流も深めたいです。絵画については、本校へ絵を展示させていただき、本校の絵をこちらへ展示していただきました。

* 藤特まつりで、本校の管弦楽部が演奏に行った時には、大変盛り上がりくれました。代表の方も、こんなに盛り上がりくれることはあまりないので嬉しかったと仰っていました。また機会があれば協力したいです。よろしくお願いいたします。

****委員 B:****

* 委員Bと申します。よろしくお願いいたします。専門は健康教育と子育て支援です。健常児もそうでない方も、健康に安らかに生活していくことを研究・実践活動しています。

* 地域の中で大学と様々な方々と連携しながら学生も教員も共に育っていく地域連携を大切にしています。是非こちらの委員を通して様々なことに組み合わせていただければと思います。

* 委員Aと同様に3年目になります。昨年の会議で発言したことが、次の会議で改善された様子が明確に分かり、遅くとも年度内で回答がもらえるなど、とても有意義な場だと感じています。

* 大学が焼津市にあり御協力できることが少ないかもしれませんが、学生の就職などで大変お世話になっております。本学の子ども学部では、幼稚園と保育士の両方の免許、幼稚園教諭と小学校教諭の免許、小学校教諭の免許が取得可能であり、大きな特色となっています。加えて、特別支援学校の免許も同時に取得できるように取り組んでいます。

* そういった支援に関しても、皆様から教えていただき、学生の支援など協力して進んでいきたいと思っています。今年度もよろしくお願いいたします。

****委員 C:****

* お世話になります。委員Cと申します。高等部の保護者です。お役に立てることがあるかは分かりませんが、大変お世話になっているので、ここに出席させていただき何かお手伝いできればと思っています。よろしくお願いいたします。

****委員 D:****

* 委員Dと申します。特別支援学校のことはこれから勉強していききたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

* 4月、5月と多くの会議に出席させていただいて、地域の方々に支えられているということを実感しています。これからも地域の方のお力をお借りしながら、努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

****委員 G:****

* 委員 G と申します。昨年度に続き、よろしくお願いいたします。

* 藤枝すみれ会は、社会福祉法人になったのは平成 23 年 2 月 23 日（ふじさんの日）です。また、この年は大震災があった年ですので忘れられない年だと思います。すみれ会は特別支援学校の卒業生も含めて、東西南北に 4 か所、全 122 名の方がいます。

* 私の娘は、藤枝特別支援学校の 1 期生でお世話になり今年で 46 歳になります。私もその分年をとり、80 歳になりました。会長になりましたが、皆さんに迷惑をかけないようにしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

****本校職員自己紹介:****



6. 学校経営計画説明

6-1. 全体説明

****委員 G:****

* ここから私が司会をさせていただきます。よろしくお願いいたします。まず学校の経営計画について校長先生から説明があります。

****校長:****

* 資料の 10 ページをご覧ください。こちらに経営計画があります。最初に県の概要をお伝えしたいです。本校のような特別支援学校（高等部がある学校）が今年度 25 校、分校が 16 校、合わせて静岡県に 41 校あります。来年度、静岡視覚特別支援学校と静岡北特別支援学校高等部が統合し、「静岡県立するが視覚総合特別支援学校」が、浜松特別支援学校に「江之島分校」が新設され、2 校増えて 43 校になります。再来年（令和 9 年）には磐田地区にも小学部から高等部までである特別支援学校が設置予定です。

* 小学校などの児童生徒数は減少傾向ですが、特別支援学校の児童生徒数は増えています。昨年度は約 5000 人を超えました。医療的ケアの必要な児童生徒は今年度 203 名まで増えています。本校にも在籍しており、学校の看護師による医療的な支援も進んでいます。

* 静岡県では、「静岡県版インクルーシブ教育の在り方」が改定され、今後 10 年間の方向性として、様々な子が共に学ぶ機会を増やしていくことが方針として出されました。

* 本校は今年度 88 名の新生を迎え、全児童生徒 333 名でスタートしました。この中で医療的ケアの必要な児童生徒は 13 名ほど在籍しています。

* 教職員は、私を含め 36 名が異動し、教員約 160 名に加え、看護師、スクールバス介助員などを含め、約 200 名で運営しています。

* 経営目標は資料 10 ページ、グランドデザインにもあります。教育目標は「ひびき合い、つくり合う」中で、自立に向けて力強く生きる人を育てる。「ひびき合い」は、子供同士や教員との心のひびき合い。「つくり合う」は、友達と物や行事を作り上げ、自分自身も作り上げる。「力強く生きる人」は、目標を持ち失敗を恐れずチャレンジする人です。

* この目標達成のため、****「安全・安心」「授業」「連携」****の 3 つの重点項目に取り組んでいます。

* ****安全・安心:**** 保護者が安心して預けられる学校。災害等を想定した訓練、危機管理マニュアル見直しにより、児童生徒の命を守ります。

* ****人権:**** 教職員の人権意識向上、児童生徒が自分や友達の大切さを学ぶ機会を設定します。

* ****授業:**** 「共に学び、力強く活動する人を育てる」をテーマに校内研修を実施し、授業力向上を図ります。毎月短縮週間を設け、授業準備や個別の指導計画の作成を行います。本校独自の「藤特版キャリアステージ研修」を実施し、教員の専門性向上に取り組みます。

* ****連携:**** 小学部1年から高等部3年までの学習・経験の繋がりを意識したキャリア教育。「キャリア教育の手引き」を活用し、将来を見据えた指導を行います。地域との連携では、学校間交流、交流籍、作品展、作業製品販売など地域資源を活用し、子供たちが地域に出て貢献する機会も増やしたいです。ホームページに加え、Instagramも開設し学校の様子を発信していきます。

6－2. 各学部経営計画説明

****委員 G:****

* 校長先生から今年度の経営計画の説明がありました。私の娘が入学した当時は200数十名でした。この後は各学部の経営計画説明です。小学部からお願いいたします。資料は12ページです。

****小学部主事:****

* 小学部です。目指す児童像は「元気に 仲良く がんばる子」です。自分の障害を理解し、必要な支援を選択・決定し、伝える手段を身につけて自立していくことを目指します。

* 今年度の重点目標と方策について、安全・安心、授業、連携の3点に取り組んでいます。これらは全て地域の方と連携しながら進めます。

* ****安全・安心:**** 児童の命を守る危機管理体制。様々な状況を想定した学部避難訓練や起震車体験、煙体験などを実施し、「なぜ避難しなければならないか」を自覚して避難できるようにします。学部の危機管理担当や藤枝消防本部の協力も得ます。教職員の人権意識向上、児童の自己肯定感・人権意識向上にも取り組みます。

* ****授業:**** 個別の指導計画に基づいた授業実践。「できた、分かったと思える授業づくり」をテーマにした学部研修。短縮週間を活用し教材研究や授業準備を行います。教員の専門性向上として、知的学級と肢体学級の研修交流を年間3回程度行い、必要な支援を職員が実感を持って学びます。ミニ学習会や藤特版キャリアステージ研修にも取り組みます。

* ****連携:**** 学習と経験の繋がりを意識したキャリア教育。「キャリア教育の手引き」を活用し、保護者にも進路指導に繋がっていることを伝えます。地域資源を活用した共生社会実現に向け、交流籍校や近隣小学校と連携し、地域人材や施設、自然環境を活用した授業を行います。児童の作品を近隣施設に展示したりもします。

* 全校生徒333人のうち、小学部は142人（知的117人、肢体25人）です。皆で地域の力もお借りしながら進めます。以上です。

****中学部主事:****

* 中学部です。小学部で育った力をさらに伸ばし、次のステージへ進むための力を積み上げる大切な3年間です。

* 目指す生徒像は「自分から進んで活動に取り組む生徒」です。教員だけでなく、生徒自身も積極的に活動に取り組む意識を持てるように支援します。

* 今年度の重点目標のポイントを説明します。

* ****安全・安心:**** 生徒にとって安全・安心な教育環境。個人の特性に応じた対応に加え、常に環境整備に努めます。発作等への危機管理を授業案の作成段階から確認し、情報伝達を迅速に行います。清掃ロッカー内の用具配置など、生徒が使いやすい環境も整備します。

* ****人権:**** 教職員一人ひとりの人権意識向上。「さん」付けでの呼称、生徒の行動理由を考えるなど、一方的な指導にならないようにします。生徒同士や教員・生徒間で、伝わる声やサインで挨

撈を交わします。

* ****授業:**** 生徒が目標を理解し、学びと成長を実感できる授業。生徒の実態に応じて指導方法を工夫・見直し、生徒の出番が多い授業を実践します。知的学級と肢体学級の合同授業を数多く取り入れます。そこに訪問教育の生徒も関わればと考えています。教員の専門性向上に向け、ミニ研修などを実施します。

* ****連携:**** 地域や家庭、関係機関と連携し、共に育ち豊かな生活を送る生徒を育てます。常に生活年齢を意識し、家庭との連携で一貫した指導を行います。地域との連携も拡充したいです。美術作品や作業製品の地域展示（静岡県武道館など）を行いました。近隣店舗の協力で作業材料などを頂いています。学校近隣地域との繋がりも大切に、地域で生活している意識を育みたい。以上です。

****高等部主事:****

* 続きまして高等部経営計画です。資料 16 ページになります。

* 目指す生徒像は「豊かな生活を築く人」です。豊かな生活のイメージは人それぞれですが、自己実現できるような生活を目指します。卒業後の生活を見据え、知識、技能、態度、意欲などを身につける学習に取り組みます。

* 学部目標は学校経営計画と同じく、安全・安心、授業、連携の 3 本柱です。

* ****安全・安心:**** 命を守る環境整備と緊急時対応力の向上。マニュアル確認やヒヤリハット事例共有に加え、生徒自身が身を守る指導も行います。実態の幅が広い、様々な生徒への対応を考慮します。

* ****人権:**** 教職員、生徒の人権意識向上と学部の決まりの共通理解。教員が挨拶、言葉遣い、「～さん付け」などで手本となり、生徒間の思いやりを育む支援をします。一人ではなく他者と関わしながら、コミュニティの決まりやマナーを身につける指導を行います。

* ****授業:**** 個別の指導計画に基づく授業実践と評価。適切な実態把握に基づき、目標達成に必要な教師の働きかけを工夫します。教員の専門性向上も図り、特別支援教育（知的障害教育、肢体不自由教育）の専門性を高める取り組みを進めます。

* ****連携:**** 学習と経験の繋がりを意識したキャリア教育。「キャリア教育の手引き」を活用し、保護者とも連携しながら、卒業後の進路決定に必要な知識・技能・態度を身につける指導を行います。社会参加・社会自立に向け、地域資源（職場実習、地域作業、講師、ボランティア等）を活用した授業や地域への発信を行います。卒業後の生活だけでなく、青年期、壮年期と続く長い人生を見据えた指導を、行政、福祉、保健、労働など様々な関係機関と連携して行います。以上です。

****肢体統括主任:****

* 肢体教育経営について説明します。資料 18 ページになります。

* 肢体教育経営の基本として、目指す児童生徒像は各学部の目指す姿とします。特別支援学校の専門性に加え、肢体不自由教育という 3 段階の専門性を身につける必要があると考えており、独立した教育計画を立てています。

* 今年度の重点目標と方策です。

* ****安全・安心:**** 命を守る危機管理体制の整備と共有。緊急時対応訓練に加え、各学級の児童生徒の緊急時対応一覧表を作成します。保護者から学校以外での一日の家庭での過ごし方に関する情報を収集し、宿泊学習や災害時の避難に活用します。校舎 3 階などスロープがない場所での避難方法についても検討を進めます。医療的ケアに関する情報共有や再発防止策の検討も行います。

* ****人権:**** 教職員の人権意識向上と学校風土の醸成。人権を尊重した接し方について確認し合います。車椅子を急に押さない、膝の上に物を乗せない、車椅子に物を掛けたりしない、寝ている人の上を跨がないなど、児童生徒を尊重する行動を徹底します。

****授業:**** 肢体教育の専門性向上。特別支援学校の8割以上が知的障害教育のため、肢体教育を学ぶ機会は現場に出たから多くなる傾向にあります。専門家による学習会や外部研修に参加し、学んだことを報告・共有する機会を設けます。知的学級や訪問教育との合同学習では、それぞれの障害に応じた目標を意識して計画を立て、実践します。

****連携:**** 学習と経験の繋がりを意識したキャリア教育。卒業後の進路は限られているため、医療的ケア、食事形態、環境などを考慮しつつ、やりがいや人生を見通せるように職員研修を行います。地域人材や施設、自然環境を活用し、近隣地域での活躍に繋がる学習環境を作りたいです。

****訪問教育担当（代弁：副校長）：****

* 訪問教育について説明します。資料 20 ページになります。

* 訪問教育の対象生徒は 6 名です。小学部の児童はおらず、中学部と高等部の生徒です。週 2、3 回自宅に訪問して教育を行っています。

* 目指す児童生徒像は「人とつながり心豊かに生きる人」です。自宅への訪問教育が主ですが、人との繋がりを大切に、スクーリング等を実施しています。

* 今年度の重点目標です。

****安全・安心:**** 命を守る危機管理体制整備と共有。緊急時や災害時の対応を保護者と確認し、教員の役割を明確にします。スクーリングの際は、使う教材や動線を確認し、安全に過ごせる計画を立てます。

****授業:**** 指導力向上を図り、気持ちや意思を表出する力を育てます。短縮日課を活用し授業を振り返り、担任・副担任で共通した働きかけを確認します。教職員の専門性向上に向け、ICT 機器の活用を積極的に行い、活用方法や実践例を共有します。人工呼吸器に関する学習会等に参加し、学んだ知識・技能を実践に活かします。

****連携:**** 児童生徒、学校、家庭、地域、関係機関との連携。保護者の思いに寄り添うため、授業の際に保護者と話す時間を設け、相談があれば関係機関と連携して対応します。卒業後の進路決定に向け「キャリア教育の手引き」を活用し、年間・単元計画を立てて授業を行います。所属学部や学年と繋がりを持ち、合同授業やオンライン授業、動画のやり取りなどを行います。



7. 校内参観

8. 学校見学の感想・意見交換

**** 委員 G:****

* 校内を見せてもらった感想や意見をそれぞれいただけると嬉しい。

**** 委員 D:****

* 初めて学校の中を見させていただいたが、外側から見ていて何をしているか知らなかった。子供一人ひとりを重視し、色々細かいところまで作業や机、色など配慮していることが分かった。先程校長先生から医ケア児の関係の話も少し出ていた。様々な障害を持つ子供も地域の中で生活できる体制を市としても考えたいので、また色々協力をお願いしたい。

**** 委員 C:****

* 子供たちが頑張って、皆すごい一生懸命やっていたので、先生方が子供が楽しく集中してできるような配慮をしているからだろうと感じた。作業のところで、そのような形にしていく説明を聞いた。分かりにくいシステムを考えないことが全てに通じるのだろう。エラーを起こした人のせいで

はなく、システムの必要性という考え方も多い。分かりやすいシステムを考えていることが本当に参考になった。

* ヘルメットや嘔吐物処理セット、AED 等がしっかりと目のつくところに置いてあり、またケアもいっぱいある人たちが多いと思いますので、知らない人が見ても分かりやすいところに置かれていることも大事。すぐ必要となるものなので、知らない人たちにとってどれだけ分かりやすいかを目指すことになるのかは、とても大事なことです。すごい工夫してくださっている感じがした。学校をすごい安心して任せられるところで、すごく配慮してくださっているなと感じました。ありがとうございます。このようなことは是非よろしくお願いしたいです。

**** 委員 B:****

* 見学させていただきありがとうございました。子供たちも教職員の皆様もとても輝いているという印象を強く感じました。子供たちの輝きは教職員の先生方のおかげだと思います。見えない御苦労があると思いますが、ああいった輝きは働く環境などもきっと良いのだろうと思います。学生たちの就職先として、自分の学生の個性を生かせる職場なのではないかと伝えたいと感じました。

* リスクマネジメントの点で、以前お話しさせていただいた点がかなり進化しているという印象を強く持ちました。

* 小学部の経営計画の中で、地域の中で色々体験しているということがあり、素晴らしいことだと思いました。実際に見させていただいた時に、体験が体験で終わらず、きちんと発表したり廊下に掲示してあったりしました。私たち学生にも、体験が体験で終わらないということをととても大切にしている部分があります。小学校時代（年齢に関係なく小さい時の体験）は大切ですが、その次の発表をしたり表現したりすることがとても大切で、それがなされていることを強く感じました。それをさらに、こういった目標と方策、あるいは説明に盛り込んでいただくと本当に明確に伝わってくるかなと思いました。ありがとうございます。

**** 委員 A:****

* ありがとうございます。本当に落ち着いている、作業も集中して取り組んでいる、説明をきちんとしてくれたことは日々の成果であると感じました。

* 避難訓練で「なぜしなければならないか自覚して避難させる」という話がありましたが、これは「なぜ」を追求することが大事だと思います。教育の中で、なぜ集中して作業するのか、なぜ落ち着いてやるのかなど、「なぜ」という考えが生徒の中に生きていると感じます。

* 「なぜ」を考えることは、生まれてから死ぬまで様々な面で役立つだろうと思います。災害時に危険な場所に行ってしまう人がいるのは、「なぜそこに行ってはいけないのか」が分かっていないからだと思います。そこがすごく大事なのではないかと感じました。

* もう一つ、「自分でできなかつたら伝える方法を考える」という話があり、これも自立であるという話がありました。作業や落ち着いて取り組んでいることも、自分でできないことを伝える方法が分かっているから落ち着いて集中してできるのだろうと感じました。

* 経営計画の中で出てきた話が、そのまま今の見学したことの中に生きていると感じます。ありがとうございます。

****委員 G:****

* 皆さん貴重な意見ありがとうございました。最後に少しだけ話させてください。

* 子供たちが 120 人程いる中で、指導員間でヒヤリハットについて考え、同じような事例を集めて対策を毎日積み重ねている。毎日 20 個ぐらいをまとめて対策を繰り返してきた。

* 昨年、一昨年から、指導員の方々から子供たちの良い部分を少し引っ張り上げて、日頃の行動に出そうという話があり、「ニコニコハット」という名目で、子供がそれぞれに優しくやったことを表彰したり、動きを見て良い部分を引っ張り上げたりしようとしています。

* 子供たちはやはり認められたい、適切に分かってもらいたいという欲求を持っています。これを見て、他の子供も「あの人は褒められた、私もやろう」という良い連鎖が生まれています。全体が柔らかくなったのは大きな効果です。毎月件数を上げて発表し、皆で褒めるということを続けてきて、随分変わってきたなという大きな印象があります。

* 生徒の動きを見ていると、皆さん落ち着いて作業されています。これは指導ができていて、良いところを引っ張り上げている効果があるのだらうと感じます。是非これからも進めてもらえると嬉しいです。

* 建物についてですが、昔は一間が 1m80cm でしたが、今の建物は全てメーターモジュールなので一間とは言いません。2m で作られています。肢体不自由のお子さんが作業場に行った時、昔の一間二間だと微妙に狭かったのが、2m (2m20cm) だと少し広くなり、物を並べた時に若干余裕ができる。このほんの 10cm20cm の余裕が作業や移動に大きく影響してくると思いました。

9. 閉会

